**イエス様の御心の道**

日本語ではどのように表現するか分かりませんが、韓国語では、「道」という言葉と「目、手、足」の言葉が組み合わせられて、それぞれ三つの言葉になって使われます。あえて日本語で書くと、「目の道、手の道、足の道」と書くことができるかもしれません。とにかく、ここで使われる「道」という言葉は、実際の道ではなく、自分の意思をもって見たり、手を差し出したり、足を運んだりする場合、自分からその対象までの見えない関わり、あるいは、繋がりを表します。例えば、見たいものがあると「目の道を移す。」と言えますし、反対に、見たくないものからは「目の道を回す。」と言えます。これと同じ形で、自分の手を差し出したり、それをやめたりする時「手の道」という言葉を使います。「足の道」も同じです。いずれも、それは自分が自ら意思を持っている場合の表現ですが、自分の意思とは全く関係がない場合でも使えます。つまり、「目、手、足」が引かれる場合なのです。

　もう、６月になりました。一年の半分が過ぎています。教会はこの６月を「イエス様の御心の月」として記念しています。それは、信者の皆さんが、イエス様の謙遜で聖なる御心を賛美しながら、各々自分の心もイエス様の御心に似ることができるように、努力することを勧めているのです。でも、そのイエス様の御心がどんな心かが分からなかったら、それに倣うこともできないでしょう。

　残念ですが、福音はただ一ヶ所に、そのイエス様の御心を表しています。それは「私の心は柔和で、謙遜であるから、私の軛を受け入れ、私に学びなさい。」という箇所です。（フランシスコ会聖書研究会、マタイ１１，２９）イエス様は柔和で謙遜な心をもって、御父に従い、また、人々に仕えました。それは、ご自身の意思よりも御父の聖なる霊の導きに従順になる御心でした。イエス様はその御心で、苦しみや悩み、悲しみや寂しさの中にいる人達に出会って彼らを慰め、また、罪びとや病人、死者までも救ってくださったのです。それで、亡くなられた韓国の金枢機卿様は、「心の道」という特別な言葉でイエス様の御心を教えてくれました。

　色々な考え、理念、論理、理由、本音などを乗り越えて、ただ、神様の意向だけを心に留め、それに従っておられたイエス様の御心の道、それこそ私達が歩まなければならない道なのです。今月、その道を共に学び、共に歩みませんか。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　主任司祭　ヤコブ　姜　真求